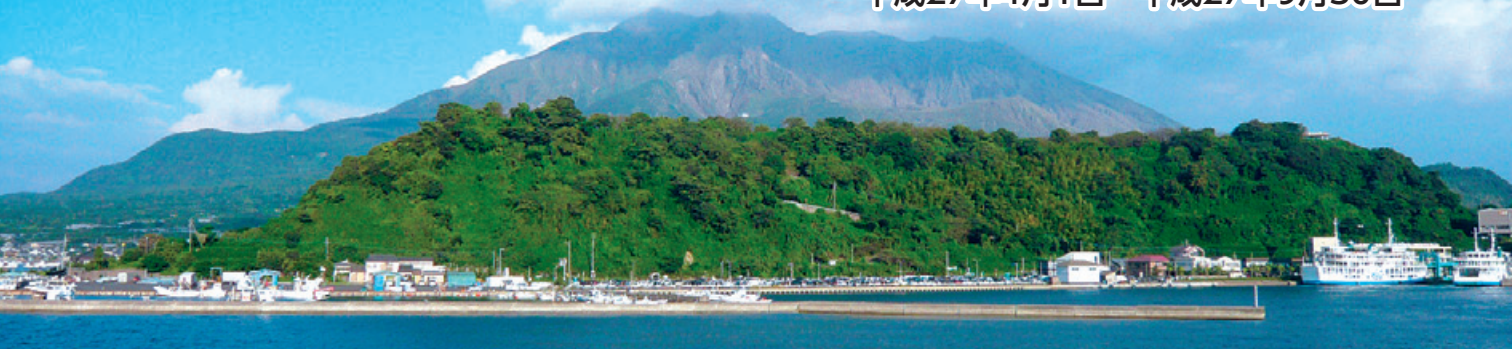


第69期 中間報告書

平成27年4月1日～平成27年9月30日



食肉処理加工センター（鹿児島）

おいしさふれあい。
ピラマール

証券コード:2281

株主の皆様へ



株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素より格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、平成27年4月1日から平成27年9月30日までの当社グループの経営成績につきましてご報告申し上げます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

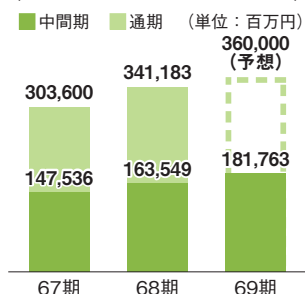
平成27年12月

代表取締役社長 松井鉄也

連結財務ハイライト

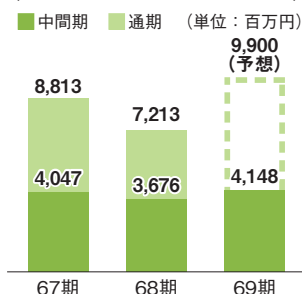
■ 売上高

1,817億円
(前年同期比11.1%増)



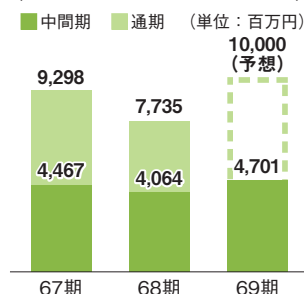
■ 営業利益

41億円
(前年同期比12.8%増)



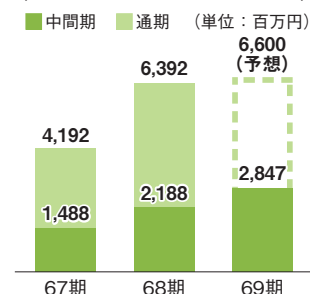
■ 経常利益

47億円
(前年同期比15.7%増)



■ 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

28億円
(前年同期比30.1%増)



※予想数値は、11月2日決算発表時で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、事業環境などの変動により、予想とは異なることがあることをご承知おきください。
※第69期より四半期(当期)純利益は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」



上半期営業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国経済の減速が企業の生産や輸出に影をおとすとともに、期待された賃上げや雇用改善による追い風も原材料や人件費の高騰による食料品等の値上げの影響で、個人消費の低迷が景気回復の足かせとなり、企業の業績改善や日本株式市場の高値に支えられてきた景気の動向も、予断を許さない状況になりました。

当業界におきましては、円安により輸入原材料や輸入商品、包装資材等が高騰するとともに、国産食肉相場の高止まりは仕入コストの上昇をもたらすなど、事業環境は大変厳しいものとなりました。

このような状況のなか、当社グループは「健康で豊かな食生活を創造するために安全・安心な商品を提供し、社会と食文化の発展に貢献していく」という基本的な考えのもと、中期経営計画の目標の達成に向けて、「売上の拡大」と「低コスト体質の推進」を重点目標と位置づけ、諸施策を講じてまいりました。

この結果、売上高は1,817億63百万円(前年同期比11.1%増)となりました。利益面におきましては、営業利益は41億48百万円(前年同期比12.8%増)、経常利益は47億1百万円(前年同期比15.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は28億47百万円(前年同期比30.1%増)となりました。

セグメント概況

セグメント概況

●加工食品事業本部

〈ハム・ソーセージ部門〉

広告宣伝においてLINE公式アカウントを立ち上げ、認知度のアップを図った「香薫あらびきポークウインナー」をはじめとする重点商品を中心とした販売活動や同時に推進している商品規格数の削減政策は、販売数量拡大のみならず工場の生産性向上にも寄与しました。

生産面においては厳しいコストアップの環境下、改革・改善を継続実施し、人時生産性向上やユーティリティコスト削減などを推進し、コスト競争力を着実に高めてまいりました。

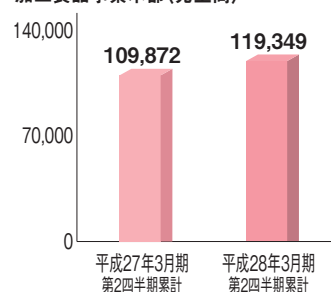
こうした生産・販売が一体となった取組みの結果、ハム・ソーセージ部門においては売上高、販売数量とも前期を上回りシェアを伸ばすことができました。

〈加工食品部門〉

コンシューマー商品では「直火焼デミグラスハンバーグ」や「スパイススティック」、絶品点心「春巻」などの商品を拡販するとともに、コンビニエンスストアを中心にPB商品についても積極的販売に取り組みました。コンビニエンスストア向けのベンダー事業については、得意先様の出店増を背景に売上が拡大するとともに、損益面においても堅調に推移しました。

結果、売上高は1,193億49百万円（前年同期比8.6%増）となり、セグメント利益は42億37百万円（前年同期比41.1%増）となりました。

加工食品事業本部(売上高) (単位:百万円)

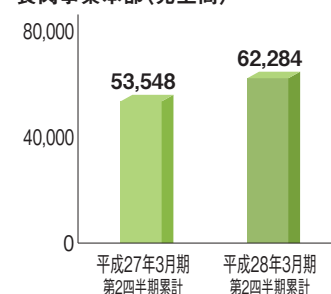


●食肉事業本部

円安、海外食肉の現地高、国産食肉相場の高止まりなどにより、食肉の仕入れ環境は極めて厳しいものとなりましたが、「ハープ三元豚」などのオリジナルブランド商品の拡販や得意先の新規・深耕開拓を積極的に行い、食肉売上高の拡大に努めました。しかし、国内豚肉や輸入牛肉の高値による仕入れ増、鹿児島食肉処理加工センターでの初期流動費用の増加や肉豚の集荷不足などの影響により、損失を計上することとなりました。

結果、売上高は622億84百万円（前年同期比16.3%増）となり、セグメント損失は4億89百万円（前年同期は7億20百万円のセグメント利益）となりました。

食肉事業本部(売上高) (単位:百万円)





総合的な営業力・開発力の強化により、収益の基盤となる売上拡大を具現化し、
お客様に必要とされる「なくてはならない会社」を目指す。
将来的に継続した発展をなし得るために、積極的な設備投資による強固な体制を構築し、
目標に掲げるローリングプランを達成する。

基本方針

コーポレートガバナンス強化とCSR推進による継続的な経営革新

- 品質保証体制の強化継続
- 人材育成・法令順守・環境保全

既存2大事業の領域拡大及び収益基盤の更なる強化

- コスト構造改革
- 営業力強化
- 消費者視点での商品政策 (安心・安全・美味しい・健康)

成長市場に向けた事業創造とグローバル展開

- 伊藤忠商事(株)とのコラボレーションを主体とした国内外事業展開
- 革新的生産技術開発
- グループ会社との連結経営強化



連結損益 中期経営計画(ローリングプラン)

(億円)

	2014年度 (実績)	2015年度 (予想)	2016年度 (計画)	2017年度 (計画)
売上高	3,411	3,600	3,520	3,580
営業利益	72	99	85	97
経常利益	77	100	87	99
当期純利益	63	66	56	61

(注1) 実績値は1億円未満切り捨て

(注2) 当期純利益は、2015年度より「親会社株主に帰属する当期純利益」

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別		科目	期別	
	前期末 平成27年3月31日現在	当第2四半期末 平成27年9月30日現在		前期末 平成27年3月31日現在	当第2四半期末 平成27年9月30日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	61,088	69,770	流動負債	60,350	60,423
現金及び預金	5,493	10,953	支払手形及び買掛金	41,051	41,136
受取手形及び売掛金	35,082	37,162	短期借入金	1,422	1,478
商品及び製品	15,602	15,486	1年内返済予定の長期借入金	3,279	2,207
仕掛品	472	486	未払法人税等	2,442	2,043
原材料及び貯蔵品	1,761	1,671	賞与引当金	1,265	1,356
繰延税金資産	987	999	その他	10,888	12,201
その他	1,698	3,017	固定負債	24,783	23,432
貸倒引当金	△8	△8	長期借入金	12,296	11,334
固定資産	80,572	81,946	退職給付に係る負債	4,013	4,035
有形固定資産	59,741	62,472	資産除去債務	263	265
建物及び構築物(純額)	26,499	25,858	その他	8,210	7,796
土地	18,088	19,226	負債合計	85,134	83,856
その他(純額)	15,154	17,387	純資産の部		
無形固定資産	966	1,054	株主資本	42,686	54,201
投資その他の資産	19,864	18,418	資本金	3,363	7,908
投資有価証券	5,861	6,113	資本剰余金	3,964	8,509
退職給付に係る資産	9,108	9,302	利益剰余金	35,492	37,920
その他	5,281	3,342	自己株式	△134	△137
貸倒引当金	△386	△339	その他の包括利益累計額	7,261	6,925
資産合計	141,661	151,716	その他有価証券評価差額金	1,819	1,873
			繰延ヘッジ損益	△3	△69
			土地再評価差額金	2,393	2,371
			為替換算調整勘定	443	268
			退職給付に係る調整累計額	2,607	2,482
			非支配株主持分	6,578	6,732
			純資産合計	56,526	67,860
			負債純資産合計	141,661	151,716


連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期	当第2四半期
		自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日
売上高		163,549	181,763
売上原価		139,724	156,659
売上総利益		23,824	25,103
販売費及び一般管理費		20,148	20,955
営業利益		3,676	4,148
営業外収益		596	759
営業外費用		208	206
経常利益		4,064	4,701
特別利益		276	633
特別損失		296	328
税金等調整前四半期純利益		4,044	5,007
法人税等		1,856	2,005
四半期純利益		2,187	3,001
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)		△0	154
親会社株主に帰属する四半期純利益		2,188	2,847

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期	当第2四半期
		自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー		3,090	5,120
投資活動による キャッシュ・フロー		△6,120	△5,491
財務活動による キャッシュ・フロー		△591	6,279
現金及び現金同等物に係る 換算差額		38	47
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)		△3,582	5,955
現金及び現金同等物の 期首残高		8,240	4,988
現金及び現金同等物の 四半期末残高		4,658	10,943

業容の拡大

■茨城工場内に新ウイナープラントを建設

茨城工場内(茨城県土浦市)に2016年6月の竣工を目指し、順調に新ウイナープラント建設工事が進んでおります。新ウイナープラントの稼働により、生産能力が拡大し、増産体制を確立できるとともに、コスト削減を図り、生産性の更なる向上を目指してまいります。



2015年6月上旬 基礎工事完了



2015年8月下旬 1Fの床部分の工事スタート



2016年6月 完成予想図

■国産豚肉処理加工事業の強化

鹿児島工場内(鹿児島県いちき串木野市)に最新鋭設備を有する食肉処理加工センターが2015年3月に完成し、稼働しております。旧工場に比べて生産能力が拡充されるとともに、衛生面においても強化されました。また原材料から解体、スライス、包装までトータルに携わるという一貫生産ならではの強みを活かして、お客様のニーズに対応すべく国産豚肉や産地パック商品などを提供してまいります。

最新鋭設備を備えた(株)かみふらの工房(北海道)は日々の処理能力が向上しました。品質管理および環境への取り組みについてもさらに強化しております。地場原料を活用した産地パック商品と鮮度の良さが評価されております。



食肉処理加工センター(鹿児島)



(株)かみふらの工房(北海道)





ステークホルダーの皆様へ

■株主優待

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの方々に長期的に当社の株式を保有していただき、当社の事業に対するご理解をより深めていただくことを目的に、2014年度から株主優待制度を導入いたしました。本年も自社製品3,000円相当を11月下旬に発送させていただきました。



イメージ

対象となる株主様

毎年9月30日現在の株主名簿に記載された、1単元(1,000株)以上保有されている株主様

■中間配当

2015年9月30日を基準日とする中間配当(1株当たり2円)を実施しました。

東京ディズニーシー® 貸切イベントご招待

春の全国キャンペーンの抽選で当選されたお客様を東京ディズニーシー®を貸切る「プレシャス・ナイト」に昨年に引き続きご招待しました。

今後も東京ディズニーランド®、東京ディズニーシー®のオフィシャルスポンサーであることを活かし、様々な消費者キャンペーンを展開してまいります。



■LINE公式アカウント

本年5月から、当社の「LINE」公式アカウントがスタートしました。さらに、8月に待望のスタンプの配信も実施しました。スタンプに使用した「あらびき星人ソップリン」は当社のオリジナルキャラクターです。お蔭様で、お友達数も増えており、「LINE」を通じ、当社の認知度アップを図ってまいります。

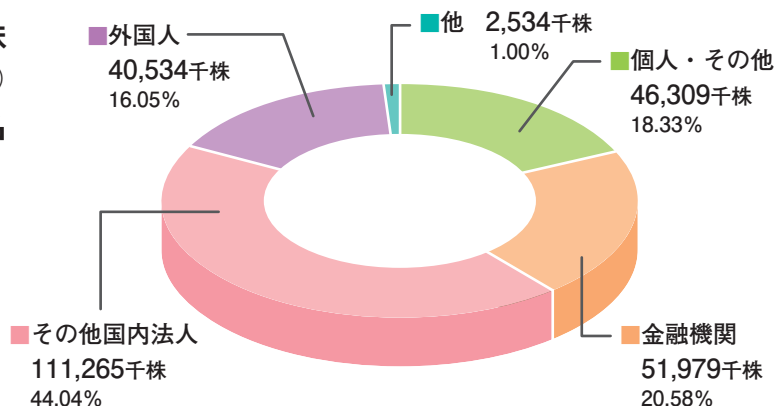


株式情報(単体)

(平成27年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 **350,000,000株**
- 発行済株式総数 **252,621,998株**
(自己株式863,728株)
- 株主数 **23,693名**

●所有者別株式分布状況



●大株主

大株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社*	99,442	39.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,711	4.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,601	3.80
三井住友信託銀行株式会社	4,613	1.83
学校法人竹岸学園	4,541	1.80
株式会社サンショク	4,000	1.58
株式会社みずほ銀行	3,832	1.52
CMBL S.A. RE MUTUAL FUNDS	3,588	1.42
農林中央金庫	3,565	1.41
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	3,197	1.27

(注) *印の株主は、発行済株式(自己株式を除く。)の総数の10分の1以上の株式を保有しています。



会社概要

(平成27年9月30日現在)

■ 会社概要

商号	プリマハム株式会社 Prima Meat Packers, Ltd.
本社	〒140-8529 東京都品川区東品川4丁目12番2号 TEL:03-6386-1800
代表者	代表取締役社長 松井 鉄也
事業内容	ハム・ソーセージ、食肉および 加工食品の製造販売
創業	昭和6(1931)年9月1日
設立	昭和23(1948)年7月9日
資本金	79億8百万円
従業員数	2,023名
支店等	東北支店(宮城)・関東支店(東京)・中部支店(愛知)・ 関西支店(大阪)・中四国支店(広島)・九州支店(福岡)
工場	北海道工場・茨城工場・三重工場・鹿児島工場
物流センター	関東物流センター(茨城)・三重物流センター・ 福岡物流センター 他4ヶ所
研究機関	基礎研究所(茨城)・生産技術開発部(茨城)
グループ会社	35社

■ 役員

代表取締役社長	松井 鉄也
専務取締役	大森 雅夫
常務取締役	前田 茂樹
取締役	矢野 雅彦
取締役	辻 真二
取締役	内山 高弘
取締役	高田 和之
取締役(社外)	山下 丈
常勤監査役(社外)	奥平 博之
常勤監査役(社外)	佐藤 功一
監査役(社外)	江名 昌彦

2015
WINTER
GIFT

株主メモ

- 事業年度
4月1日から翌年の3月31日まで
- 定時株主総会
毎年6月に開催いたします。
- 基準日
定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他、必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
- 単元株式数
1,000株
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- お問い合わせ先・郵便物送付先
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
 - ・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
 - ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
- 公告の方法
電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。

これまでも、
これからも。



おいしい、だけあい
プリマハム



TZ-41



BP-51

プリマハム株式会社

東京都品川区東品川4丁目12番2号 品川シーサイドウエストタワー 〒140-8529
電話 03-6386-1800
<http://www.primaham.co.jp/>

